



いづみ

No.72

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 42



《北風の中で》

水野 智吉

(2 ページに「作者の言葉」)

自作自選 42

作者の言葉

私は乾漆技法を用いた裸婦像の制作をしています。立体造形としての彫刻表現の探求、愁いや哀愁といった翳りのある情感を醸し出すような作風などをテーマに取り組んでいます。

(1969年生まれ。国画会会員、全道展会員、函館在住。)

タイトル：《 北風の中で 》

制作年：2019年

素材：乾漆

サイズ：H76×W64×D33 cm

所在地：作者蔵

連載 宮の森の四季 42

本郷新記念札幌彫刻美術館

いま思うしあわせ

業務係・大場裕子

コロナ渦で長期休館となったこの時期、本郷新が執筆した随筆や評論など雑誌・新聞記事の整理に館をあげて取り組んだ。何冊ものスクラップブックは、本郷新が仰いだ高村光太郎との親交、影響を受けたであろうロダンの人と芸術論、歴訪した中国や朝鮮などの国々との文化交流、そして、私が生まれ育った札幌の風物や街並みと中味は興味がつきない。

当時、4人家族で現在の平岸地区、木の花団地に住んでいた。街にも近く衣、食、住すべてが満たされる環境だ。原っぱで花を摘んだり、昆虫を採ったり、河原では石を拾った。鉄道に乗れば十五島公園や定山溪で自然を満喫できる。

中島公園や大通公園にはモニュメントがたち、デパートの催事で展覧会が開催され、本や絵本、文房具が並び楽しみができた。レストランでの食事やおいしいお菓子も味わえるようになった。街の市場では惣菜も買えた。

わたしは札幌が大好きだ。季節のうつろい、澄みきった空、ゆるやかな風、樹や草花のざわめき、草や土、水のおい……。一方、街は整備され、豊かになり、夢があった。どちらもなつかしい原風景だ。



時代の変化に揺るがない不動の芸術空間

磯田 憲一（公益財団法人北海道文化財団理事長）

もう 27 年も前のことだが、北海道庁で初めて「課長」という立場になった時、課内に「男声合唱団」をつくらうと呼びかけた。肩書が重きをなす縦社会だが、「職にある時もない時も」、肩書を越えた繋がりを大切にしたいとの思いからだ。その合唱団は、メンバーの多くが職を離れた今も歌声を響かせているが、団員が、団歌のように歌い継いできた楽曲がある。「大雪よ」という北の大地がテーマの曲だが、詞に込められた思いに団員の誰もが心魅かれてきた。

「ちっぽけな自分にため息こぼれたら、君に逢いにゆこう…」 / 「追いかけた夢が壊れてしまったら、君に逢いにゆこう…」

「君」とは、アイヌ語でカムイミンタラと呼ばれる「大雪山」のことだ。人生の道のりは、順風満帆の時ばかりとは限らない。俯き、うな垂れる日も少なくないはずだ。そんな心縮む季節に、大きく腕を広げて待っていてくれる「君」に逢いにゆこうというのだ。その時「君」は「疲れた体を投げ出し眠れよ」と囁き、「時の流れるままにまかせよ」と静かに励ましてくれる。

「動かざること山の如し」という言葉がある。揺れる心に寄り添う「大雪山」という不動の山並みは、懐深い母のような存在とあっていい。

順風の時にしかける観光地は世にごまんとあるが、「大雪よ」は、この大雪連山が内に秘める魅力を伝えてやまない。量的拡大をみざす「観光」とは対極にある視点だが、たとえ数は少ないとしても、その魅力の“真髄、に触れ、心和ませた旅人の存在は、やがてそこに住む人の誇りや喜びを育むに違いない。

1992 年にスタートした、自然と彫刻の融合をみざす芸術空間「アルテピアッツァ美唄」。私たちが当初から揺るぎなく守り続けてきたのは、来訪者の「量的拡大」をみざすのではなく、心に響く佇まいをひたすら守り続けることだった。時代に翻弄された地域が、時代の変化に揺るがない価値の創造をみざす挑戦。「石炭」の衰退にあえいできた美唄をフィールドにした「アルテ」は、「大雪山」にも似た「不動の場」を創る活動だったといえる。

先年「アルテ」で開かれた「思い出の炭鉱写真展」で、美唄の山並みを背景に、かつての賑わいを写した一枚の写真に出合った。街は寂れ果てたが、写真の添え書きにこうあった。「街は変わったが、山の稜線は変わらない…」。

変わらぬ姿でそこに在り続ける山容に深い愛着を覚える。人は、年とともに変容するが、「アルテ」が訪れた人の胸を打つのは、変わりゆく自己を確認することのできる「変わらぬ場所」だからなのではないか。不動の場で在り続けることで、「アルテ」は今、比類なき時空間を築きつつある。

誤解を恐れずに言えば、「アルテ」に点在する彫刻について、私たちは、その“作品”としての価値の一つひとつを説明することはほとんどないといっている。

個々の彫刻作品を“売り”とし収蔵する美術館は、全国に数多くあるが、「アルテ」は、空間全域が、一体として一つの価値を持つ空間として存在しているといえるだろう。

そうした視点に立つと、「アルテ」という芸術空間は、時代の変化に揺るがない不動の「社会資本」として、その役割を未来に向かって担い続けていくことになる。

この稀なる壮大な挑戦に関わっている喜びを胸に、これからも、ささやかながら力を重ねていきたいと心している。

「危機的状況のなかで芸術が教えてくれる人間の強さ」

ベトナム語通訳人 渡邊ひろこ

「コロナ渦の美術館」という題で執筆の機会を与えられましたが、小樽市のステンドグラス美術館を退職してちょうど1年。現場の人間ではありませんが、ずっと美術ファンであり、美術館・博物館に愛情を感じていることには変わりありません。そんな立場からこの原稿を書かせてもらうことにしました。

日本では他のどの業種にも先駆けて2月26日に国立の文化教育施設に休業要請が出されました。美術館・博物館の現場は、過去に直面したことのない様々な仕事に追われたことでしょう。何一つ確定要素の無い「不安」を想定し、日々変わる進捗に合わせて計画を立てなくてはならないのです。どれだけの混乱と絶望の日々なのだろう…当初、私は不明瞭な政府の方針やあいまいな補償、また、文化教育施設こそコロナ感染源と言わんばかりの手法に憤りを感じつつ、悲壮感をもってインターネットを見ていました。

もちろん、その後自粛要請が拡大するにつれ、どの業界、業種とも同様の状態だったと思います。飛行機やグローバルな流通、観光事業など、近代社会の中で人類が積み上げてきた便利で感動的な「物質文明」が、逆にリスクを高め、環境・物質的見直しが迫られる中、自分たちのできる事を模索し、ネットサービスの拡充を図るなど、急速な社会変容に対しどう変化対応できるかが問われました。経済的、肉体的負担は長期化しそうです。

一方で、ふと、美術業界が担うのは「精神文明」

の方だという思いが頭をよぎります。現場での仕事の環境や手順面など物質的変容は、もちろん美術館にも迫っていましたが、並行して多くの美術館・博物館のお知らせはどんどん多弁になっていきました。各館の配信するWEBニュースには普段見られないバックヤードの様子が流れ、以前からインターネット上で各館の収蔵作品が一部見られるサービスはあったものの、それらが本領を発揮し、VRや公開作品数の増加など、内容の拡充が進みました。バーチャル作品展はゲーム業界まで波及し、世界の貴重な作品がゲーム内の仮想美術館で鑑賞できるようになりました。TWITTER上ではイギリスのヨークシャー博物館が奇妙で不気味な収蔵品バトルを呼びかけ、世界中の美術館・博物館がそれに呼応しました。SNSから発せられる知恵や作業の様子からは各学芸員の個性も伝わります。過去の先達の奇知に学び、好奇心をもって新しい在り方を模索する姿は決して悲壮的なものではなく、前向きで、創造的でさえありました。

報道される諸外国と比較してしまい、日本の政策や方針に不安を感じる方々は多くいらっしゃるでしょう。もちろん、一有権者としてそれらを問う行動をとることは大切ですが、まず大前提として、「精神文化の豊かさは強い」という確信をもつこと。物質社会が変容を求められている時だからこそ、芸術、思想、宗教などの精神文化が軸足となって、新しい時代へ大きく前進するのかもしれない。

ペスト後のルネッサンス、コレラ後のアール・ヌーヴォーのように、ポストコロナの人類がどう強く躍動するのか注視したい…と認めるにはまだ不謹慎かもしれませんね。

コロナには負けません！！ 自粛の中みんなの「つぶやき」

昨年秋から彫刻美術館で本郷新のスクラップのパソコン入力をしています。帰路、残光の街並みを眺めながら坂道を下るとき、松の木陰でギターを奏でる乙女像に癒されます。さすが本郷新の宮の森ワールド。一日も早いコロナの終息を祈るのみ。 原田 照子

Stay Home が解けたら、行きたいな…札幌芸術の森、モエレ沼公園、石山緑地、アルテピアッツァ美唄。刻々と変化する自然とそこにたたずむ彫刻たち。ビッキさんの作品は元気かしら？ 押野記代子

数年前から札幌国際プラザ外国語ボランティアの北大キャンパスガイドとして、国内外から北大を訪れる観光客に北大の歴史をご案内しておりました。ところが今年は例年5月からの活動がコロナウイルス緊急事態宣言発出により、スタートしておりません。訪問者との楽しかった交流をふと思い出します。この活動の再開を願いつつ、これからは第2、第3のパンデミックの波と共生し、新社会システムに順応して行くのかも知れません。 縄野 裕子

コロナ禍で不自由な日々になるかと思いきや、紋別に住む息子が温室を作ってくれることになり、にわかには大忙し。廃材利用の立派な温室が完成した。

アイボリー色のペンキを塗ったら、オシャレに変身したので、誰かをご招待したい気分。あ！誰とも会っちゃいけないのだった。やはり不自由だった。 園部 亜佐子

新型コロナによる自粛生活の中、日常的にできた活動が中止となり、スケジュールが空いた時間をどうしようかと、戸惑うことがありました。医療従事者という職業柄、職場に行くたび、自分が感染者になっているのではないかと不安に思ってしまうこともたびたび。自粛中は家族や知人に布マスクをプレゼント、花壇の手入れ、海がすぐそばなので散歩をして体力維持。自粛が解除になり、早く彫刻たちをきれいにするのがたのしみです。 藤倉まゆみ

2020 年度札幌彫刻美術館友の会総会

コロナウイルス禍で初の総会中止

新年度活動計画、予算案など会報に掲載

2020 年度友の会総会は当初 5 月 10 日、札幌カナモトホールで開催予定だったが、全国的に蔓延した新型コロナウイルス禍の緊急事態宣言による外出自粛要請などウイルス感染防止の見地から総会の開催を断念し、中止とした。総会を開催できなかったのは初めて。このため総会提出議案を会報に掲載した。議案審議ができないため、各議案にたいする意見などは事務局で対応する。

議案第 1 号

2019 年度活動報告（案）

◇総会

2019 年 4 月 28 日 札幌市民ホール（カナモトホール）
特別講演 「本田明二と北海道の彫刻家たち」
文化芸術交流センター 吉崎元章氏

◇特別活動

◇医療雑誌「ケア」に彫刻紹介記事連載
「さっぽろ野外彫刻美術館マップ」（13-24 回）
◇デジタル彫刻美術館公開準備

◇一般活動

- 1 野外彫刻清掃保全活動（14 回実施）
レッドプラネットホテル彫刻清掃（9 月 21 日実施）
- 2 彫刻学習会（5 回実施、ほかに札幌藤学園学生対象学習会 1 回）
- 3 会報「いづみ」発行（67, 68, 69, 70 号）
- 4 HP 更新（トップバナーの更新）
- 5 V-net 主催ボランティアパネル展へ参加（5 月 19-25 日）
- 6 友の会リーフレット作成（5 月）
- 7 開成校インターンシップ生受け入れ（6 月 29 日）
- 8 老朽彫刻リスト作成（9 月）

◇研修・交流

- 1 バスツアー 9 月 9 日 胆振管内白老町 飛生芸術祭見学ほか
- 2 新年会 2020 年 2 月 11 日 すみれホテル

◇美術館支援活動

- 1 図書整理と図書コーナーの受付
- 2 道内野外彫刻写真（仲野コレクション）の管理委託
- 3 本郷新スクラップのデータベース化

◇対外活動

- 1 鴨々川清掃（6 月 2 日）
- 2 中島中学校出前講座（9 月 2 日、62 人参加）
- 3 中島公園かもくま祭（7 月 7 日）
- 4 中学彫刻清掃（10 月 1 日、特別支援学級生対象、《協力の像》清掃）
- 5 ゆきあかり in 中島公園（2 月 7 日）

◇その他

議案第 3 号

2020 年度活動計画（案）

◇総会【中止】

2020 年 5 月 10 日 13:30～ カナモトホール（札幌市民ホール）
特別講演会 「本郷新没後 40 年にあたって」（仮題）
講師 山田のぞみ氏（本郷新札幌彫刻美術館学芸員）
(注) コロナウイルス感染拡大による非常事態宣言で中止

◇特別活動

- ①「北海道デジタル彫刻美術館」の公開
- ②医療雑誌「ケア」に「北海道野外彫刻美術館マップ」連載
- ③第 3 次アジア招提「第 44 回講演会」参加（開催日未定）
「街なかの美を守ろう～大通公園の野外彫刻」
橋本信夫、高橋大作両氏

◇一般活動

1. 野外彫刻清掃保全活動（4 回程度予定）
2. 彫刻学習会（5 回程度予定）
3. 会報「いづみ」発行（71, 72, 73, 74 号）
4. HP 更新
5. 彫刻セミナー（開催日未定）
講演会「戦後日本彫刻の美とヒューマニズム～本郷新をめぐって」
（彫刻美術館学芸員・山田のぞみ氏）
6. 北海道彫刻デジタル美術館の管理、運営

◇研修・交流

- 1 バスツアー
- 2 新年会

◇美術館支援活動

- 1 図書整理と図書コーナーの受付
- 2 本郷新スクラップ（仲野コレクション）のデータベース入力
- 3 野外彫刻データベース充実の共同推進

◇対外活動

- 1 ゆきあかり in 中島公園
- 2 コンクリート像のパーマシールド塗装（中島公園）

◇その他

新企画「札幌の彫刻を訪ねて」（2 回程度）の検討

議案説明

▽議案第 1（2019 年度活動報告） 医療雑誌「ケア」に前年度から連載した「野外彫刻マップ」が全 24 回で完結した。彫刻清掃ではレッドプラネットホテルとの大通公園彫刻清掃が真っ赤なユニフォームで注目された。彫刻学習では藤学園生との活動が目新しかった。▽議案第 3（2020 活動計画） 予期しないコロナウイルス禍による総会中止のほか予定されてい

る多くの活動計画の見直しが避けられない。

議案第2号	2019年度 決算・監査報告 (2019年4月1日～2020年3月31日) 2019年度 実績	
収入の部		
項目	決算額	内 訳
繰越残高	586,394	運営準備金を含む
会費	282,000	138名分
雑収入(現金)	18093	インターンシップ謝礼等
バスツアー	144,500	
新年会	156,000	
収入合計	1,186,987	
支出の部		
項目	決算額	内 訳
事務用品費	23,218	コピー用紙・封筒など
旅費交通費	0	
運賃	9,200	高圧洗浄機運搬など
通信費	136,963	会報発送費など
会議費	15,386	
賃借料	2,880	講演会会場費、ロッカー使用料など
手数料	530	振込手数料
消耗品費	16,844	彫刻清掃用具など
接待交際費	16,000	
印刷費等	104,968	会報など
保険料	1,800	ボランティア保険
入館料補助	7,770	
講師謝金	0	講演会講師謝礼など
技術協力費	100,000	
共催経費	6,112	かもくま祭
図書新聞費	2178	
雑費	3,856	
バスツアー	144,500	9月9日白老方面 40名
新年会	156,000	2月11日すみれホテル 39名
支出合計	748,205	
繰越残高	438,782	
(内訳)		
現金	8,281	
普通預金(運営準備)	428,674	
郵便預金	1,827	
監査報告書		
2020年 5月 30 日札幌彫刻美術館友の会の経理を監査しました。		
関係書類、帳票類は正確で適切に処理されていることを確認しましたので、ご報告します。		
札幌彫刻美術館友の会		
監査	関 堂 安 司	
監査	園 部 亜 佐 子	

議案第4号	2020年度予算案 (2020年4月1日～2021年3月31日)	
収入の部		
項目	予算額	内 訳
繰越金残高	438,782	運営準備金を含む
会費	300,000	
バスツアー	150,000	
新年会	150,000	
収入合計	1,038,782	
支出の部		
項目	予算額	内 訳
事務用品費	15,000	コピー用紙、封筒など
旅費交通費	2,000	
運賃	5,000	高圧洗浄機運搬など
通信費	140,000	会報発送費など
会議費	10,000	
賃借料	10,000	講演会会場費、ロッカー使用料など
消耗品費	10,000	彫刻清掃用具など
接待交際費	20,000	参加団体会費など
印刷費等	110,000	会報など
保険料	5,000	ボランティア保険
入館料補助	10,000	
講師謝金	10,000	講演会講師謝礼など
共催経費	0	かもくま祭
雑費	5,000	
バスツアー	150,000	
新年会	150,000	
予備費	386,782	
支出合計	1,038,782	

議案説明 (つづき)

▽議案第2 (2019年度決算監査報告) 収入は会費138人分282,000円ほか繰越金(運営準備金)を含め1,186,987円。支出は748,205円で新たに北海道デジタル彫刻美術館ウェブ立ち上げのための技術支援協力費としての100,000円が加わったほか438,782円を次期へ繰り越した。

▽議案第4 (2020年度予算案) 収入は運営準備金を含む繰越金438,782円を加え1,038,782円。支出は会報印刷、発送費に250,000円ほか、バスツアー、新年会費などに各150,000円、予備費386,782円を計上、支出総額は前年度159,612円減となった。

訃報

亀谷 隆さん逝去

5月7日、逝去。1943年、函館市生まれ。78歳。中島公園の木下成太郎像の修復、保存活動をはじめ東京・武蔵野美大校友会北海道支部長として友の会と武蔵野美大との接点になるなど会の運営に多大な貢献をした。

事務局日誌

▼2020年3月10日＝会報「いづみ」71号印刷所入稿▼13日＝定例役員会(エルプラザ)中止▼27日＝会報71号発送作業(エルプラザ)▼4月8日＝彫刻学習会(かでの2・7)道議会議員対象▼13日＝5月開催予定の総会中止決定▼5月1日＝大関会員を中心にオンラインビ会議テスト▼10日＝2020年度総会中止▼14日＝5月定例役員会中止

編集後記

▼新型コロナウイルス感染拡大で友の会の総会さえ中止のやむなきに至った。今年一年の会の活動を審議する場もなくなり、窮余の一策として提出議案を会報紙面に載せることにしたが、狭いスペースに収容するため読むのが困難な状態になってしまった。ご容赦を▼訃報でお知らせしたが、会の活動に尽力いただいた亀谷隆さんが亡くなった。亀谷さんが開拓記念館の主任学芸員時代から親交があっただけに言葉もない。手元に著書「北海道博物館史料」2巻がある。上下1000ページ近い労作である。仕事ぶりに人柄がしのばれてならない。ご冥福をお祈りする。合掌 (大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いづみ」 No.72

2020年7月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30

011-884-6025)

印刷 山藤三陽印刷

会報「いづみ」72号 目次

自作自選42 《北風の中で》	水野智吉	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季42「いま思うしあわせ」	大場裕子	2
風見鶏「不動の芸術空間」	磯田憲一	3
寄稿「芸術が教える人間の強さ」	渡邊ひろこ	4
特集「自粛の中みんなのつばやき」		5
友の会ニュース「2020年友の会総会中止」		6-7
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■舟越桂展～言葉の森～

7月23日[木]～9月27日[日]

道内に所蔵される舟越桂彫刻作品全6点を一堂に集める初の展覧会舟越桂の作品世界における「かたち」と「ことば」の関係を探る。

■わくわく★アートスクール2020作品展

6月27日[土]～7月16日[木]

記念館

■本郷新のレガシー「五輪大橋と花束」

開催中～9月27日

目

札幌五輪開催に向けて整備された真駒内五輪大橋を飾る本郷新《花束》と時を同じくして設置された山内壯夫、佐藤忠良、本田明二の各作品の魅力と意義を再考し、芸術の果たす社会的な役割を探る。

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<https://sappor>

[o-chokoku.jp](https://sappor-o-chokoku.jp)